

令和 2 年 9 月 9 日現在

機関番号：34517

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12187

研究課題名(和文)小児科外来における看護実践の暗黙知の解明とSECIモデルを活用した学習方法の検証

研究課題名(英文)Clarification of tacit knowledge of nursing practice in pediatric outpatient department, and validation of learning method using SECI model.

研究代表者

藤田 優一 (Fujita, Yuichi)

武庫川女子大学・看護学部・准教授

研究者番号：20511075

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の課題の目的は、小児科外来の看護師が暗黙的に実践している「診療や看護をスムーズにさせるための知識・技術」を、形式知へ変換して明らかにすることであった。第1研究として、小児科外来の看護師を対象に質的なアンケート調査を行い、実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫、について明らかにした。第2研究として、小児科外来の看護師を対象に、明らかにした項目の実施頻度について量的なアンケート調査を行った。第3研究では、総合病院の小児科外来で、看護師を対象に参加観察を行い、小児科外来の診療場面において、スムーズに診療や看護を進めるための看護師の判断や工夫について明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小児科外来の現状としては、待ち時間が長いことや相談しづらいことなどの不満が多かったと報告されている。本研究の課題では、これまでに明らかにされていなかった診療や看護をスムーズにさせるための知識・技術について、複数の視点から調査を重ねて明らかにすることができた。そのため、これらの結果について社会へ成果を発表することで、小児科外来の看護師は、診療や看護をスムーズにさせるための知識・技術についてさらに深めることができ、受診する子どもとその家族へ貢献できると考える。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to identify techniques used by nurses to perform medical examinations effectively in pediatric outpatient departments. In the first study, we conducted a qualitative questionnaire survey for pediatric outpatient nurses, and clarified the techniques for smoothing and effectively the medical treatment and nursing. The second study, we conducted a quantitative questionnaire survey on the frequency of implementation of techniques for pediatric outpatient nurses. The third study, we conducted a participant-observer study of nurses in a pediatric outpatient department of a general hospital, and clarified the nurse's judgments and techniques of nurses to smoothly carry out medical treatment.

研究分野：小児看護学

キーワード：小児科外来 看護師 技術

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

核家族化や近隣との関係が希薄となっている現代では、子どもが病気になった時に母親は十分なサポートが得られずに不安を抱えるケースも多い。小児科外来は病気の子どもの診療だけでなく、子育てに不安がある母親への育児支援や児童虐待の早期発見、家庭での看護方法の説明なども行っており、小児科外来の役割は非常に重要といえる。

しかし小児科外来の現状としては、受診した母親の 40.2% が外来に何らかの不満があり、その理由として「待ち時間が長いこと」や「相談しづらいこと」が多かったと報告されている(長根, 2003)。小児科外来の待ち時間は平均で 60~70 分と長く(主海, 2014)、病気で苦しむ我が子をなだめながら長時間待つことは親子ともに大変である。また、「虐待を受けたかもしれない子どもが来たが、忙しくて何もできなかった」という外来看護師の現場の声もある(東京都, 2009)。

私達の先行研究では、小児科外来の看護師は、乳幼児が啼泣しやすい場面において乳幼児の機嫌と母親の心理状態をアセスメントしながらそれに応じた声かけや援助内容を使い分け、診察がスムーズに進むように看護を行っていたことが明らかとなっている(藤原, 2008)。このように、小児科外来の看護師は診療や看護をスムーズにさせる(無駄な時間や労力を減らし、支障なく進行させる)ために様々な知識や技術を駆使しながら看護を実践している。しかし、具体的にどのように知識や技術を駆使しているかを明らかにした研究は国内外ともに報告されていなかった。

第 1 研究の調査として、小児科外来の看護師を対象に質的なアンケート調査を行い、実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫、について明らかにした。第 2 研究として、小児科外来の看護師を対象に、明らかにした項目の実施頻度について量的なアンケート調査を行い関連性について明らかにした。第 3 研究として、総合病院の小児科外来で看護師を対象に参加観察を行い、小児科外来の診療場面において、スムーズに診療や看護を進めるための看護師の判断や工夫について明らかにすることができた。

2. 研究の目的

第 1 研究

小児科外来に勤務する看護師を対象にアンケート調査を行い、総合病院の小児科外来の看護師が、受付から診察が終わるまでの間に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫について明らかにした。

第 2 研究

小児科外来の看護師を対象に、第 1 研究で明らかにしたスムーズにさせるための技術・工夫の実施頻度について量的なアンケート調査を行い、看護師が認識する「保護者の小児科外来に対する満足度」との関連要因について明らかにした。

第 3 研究

小児科外来の診療場面において、スムーズに診療や看護を進めるための看護師の判断や工夫について、参加観察とインタビューにより明らかにした。

3. 研究の方法

第 1 研究

小児が入院する病棟のある総合病院 300 施設の小児科外来に勤務する看護師を対象に、2016 年 4 月に調査を実施した。看護部へ研究の依頼書と質問紙、返信用封筒を送付した。

看護部長が研究の依頼書を読み、研究協力に同意した場合は、小児科外来の状況について詳しい看護師 1 名を選定し、研究の依頼書と質問紙、返信用封筒を渡し、調査対象の看護師が研究協力に同意した場合は、質問紙に回答し、無記名で返信用封筒にて郵送とした。調査内容は、「小児科外来で受付から診察が終わるまでの間に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫について」の自由回答とした。

第 2 研究

小児が入院する病棟のある総合病院 451 施設の小児科外来に勤務する看護師を対象として、2016 年 8 月にアンケート調査を実施した。看護部へ研究の依頼書と質問紙、返信用封筒を送付した。看護部長が研究の依頼書を読み、研究協力に同意した場合は、小児科外来の状況について詳しい看護師 1 名を選定し、研究の依頼書と質問紙、返信用封筒を渡し、調査対象の看護師が研究協力に同意した場合は、質問紙に回答し、無記名で返信用封筒にて郵送とした。調査内容は、第 1 研究で明らかにした項目を参考にして作成した「診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫」の実施状況として 42 項目について、小児科外来の看護師間で統一して実施しているかを「実施している：4」「ときどき実施している：3」「あまり実施していない：2」「実施していない：1」の 4 件法で回答を求めた。対象者が認識する保護者の小児科外来に対する満足度は、「あなたからみた保護者の満足度は平均的にどの程度であると考えますか」と質問し 0 点（非常に満足していない）～ 100 点（非常に満足している）の Visual Analogue Scale で回答を求めた。

第 3 研究

A 大学病院の小児科外来に勤務する看護師のうち、小児科外来での勤務経験が満 1 年以上で本研究への参加に同意を得た 5 名を対象に、2017 年 4 月に調査を実施した。看護師 1 名につき 2 日間、5 名でのべ 10 日間の参加観察を実施した。研究者は 3 名で調査を実施した。参加観察の時間は、外来が診察を行う 9 時から 12 時と 13 時から 16 時までとした。インタビューは参加観察後に毎回行い、1 回あたり 30 分程度実施した。

4. 研究成果

第 1 研究

回答は 62 名（回収率 20.7%）ですべて女性であり、対象者の看護師経験年数は平均 20.5 年、小児科外来での経験年数は平均 4.5 年であった。小児科外来で受付から診察が終わるまでの間に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫についての自由回答は計 136 件であった。これらのコードは 11 カテゴリー（以下、カテゴリーは【】で示す）に類型化され、事前に情報収集をしてスムーズに診察ができるようにする【問診を行い情報を得る】、重症患者を早めにキャッチして対応する【重症患者を優先する】、待ち時間が長くなってしまった際に不満とならないよう配慮する【待ち時間への配慮を行う】、スムーズに診察が進むように事前に検査や準備を実施する【診察の前に計測や検査を行う】【診察が滞らないように事前に準備しておく】、子どもの安心感や理解度を高め主体的に診察に臨めるようにする【プレパレーションを実施する】【診察中に子どもに安心感を与える】、外来の状況を判断してスムーズに診察が進むように采配する【診察する医師を決める】、事故を防止し安全に配慮する【安全を確保する】【患者間違いを防止する】、保護者の理解を高め、安心できるように配慮する【保護者の理解を高める】であった。

第 2 研究

調査票は 136 施設より回答があった（回収率 30.2%）。看護師が認識する保護者の満足

度の平均は、100 点満点のうち 57.8 (SD = 16.1) 点であった。看護師が認識する保護者の満足度との相関関係を Spearman の順位相関、Pearson の積率相関を用いて分析した。これらのうち有意な相関関係があったのは 17 項目であり、総病床数などその他の項目については有意な相関関係はみられなかった。満足度と有意な相関関係にある項目を独立変数とした重回帰分析(ステップワイズ法)を行った結果、「【人間関係】医師と看護師の人間関係」「【技術・工夫】複数の検査がある場合は結果がでるまでの時間が長い検査から実施する」「【待ち時間】平均的な待ち時間」「【困っていること】医師の子どもや保護者への対応」「【困っていること】小児科経験の浅い看護師の教育」の 5 項目が採用された。多重共線性を示す VIF 値は 1.07~1.19 であり、調整済み決定係数 R^2 は 0.31 ($p < 0.001$) であった。

第 3 研究

対象者 5 名それぞれを 2 日間調査し、調査日数はのべ 10 日間であった。1 回の参加観察時間は 347 ± 25 (平均 \pm 標準偏差) 分、インタビュー時間は 23.8 ± 6.4 分であった。フィールドノートとインタビューの逐語録を分析した結果、小児科外来の看護師がスムーズに診療や看護を進めるために実施していた判断や工夫は、28 コード(以下、 \square で示す)であった。これらのコードを、相違点、共通点について比較し分類した結果、4 カテゴリー『時間を短縮するための判断・工夫』『安全に診療をするための判断・工夫』『関係性を築くための判断・工夫』『待ち時間に対する不満を軽減させるための判断・工夫』に分類された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 藤田優一	4. 巻 47
2. 論文標題 総合病院の小児科外来の看護師が処置・検査中に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本看護学会論文集：ヘルスプロモーション	6. 最初と最後の頁 107-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子	4. 巻 21(3)
2. 論文標題 小児科外来の看護師が受付から診察が終わるまでの間に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 外来小児科	6. 最初と最後の頁 465-459
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子	4. 巻 4
2. 論文標題 小児科外来の看護師が認識する「保護者の小児科外来に対する満足度」の関連要因	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 武庫川女子大学看護学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 47-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） info:doi/10.14993/00001421	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 藤田優一、吉田陽子、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子	4. 巻 49
2. 論文標題 幼児の採血場面における小児科外来の看護師による声掛け	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本看護学会論文集：ヘルスプロモーション	6. 最初と最後の頁 87-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田優一, 吉田陽子, 北尾美香, 植木慎悟, 藤原千恵子, 竹島泰弘	4. 巻 5
2. 論文標題 小児科外来の看護師が実施しているスムーズに診療や看護を進めるための判断や工夫：参加観察とインタビューによる調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 武庫川女子大学看護学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 藤田優一, 吉田陽子, 北尾美香, 植木慎悟, 藤原千恵子
2. 発表標題 幼児の採血場面における小児科外来の看護師による声掛け
3. 学会等名 第49回日本看護学会論文集：ヘルスプロモーション
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 植木慎悟, 吉田陽子, 藤田優一, 北尾美香, 藤原千恵子, 竹島泰弘
2. 発表標題 採血場面において小児科外来の看護師が診療や看護をスムーズにさせるために実施している判断や技術
3. 学会等名 第27回日本外来小児科学会年次集会 (三重県津市)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田陽子, 藤田優一, 北尾美香, 植木慎悟, 藤原千恵子, 竹島泰弘
2. 発表標題 診療場面において小児科外来の看護師が診療や看護をスムーズにさせるために実施している判断や技術
3. 学会等名 第27回日本外来小児科学会年次集会 (三重県津市)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北尾美香、植木慎悟、吉田陽子、藤田優一、藤原千恵子、竹島泰弘
2. 発表標題 小児科外来の看護師が行っている診療や看護をスムーズにさせるための情報収集と情報共有の方法
3. 学会等名 第27回日本外来小児科学会年次集会（三重県津市）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子
2. 発表標題 小児科外来の看護師が認識する「保護者の外来への満足度」との関連要因
3. 学会等名 第27回日本外来小児科学会年次集会（三重県津市）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤田優一、植木慎悟、北尾美香、藤原千恵子
2. 発表標題 What to Do Until the Ambulance Arrives: Nursing Practices at Pediatric Outpatient Departments in Japan
3. 学会等名 2nd APNRC（台北）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤田優一
2. 発表標題 総合病院の小児科外来の看護師が処置・検査中に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫
3. 学会等名 第47回日本看護学会：ヘルスプロモーション
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤田優一
2. 発表標題 診療や看護をスムーズにさせるために実施している看護師の技術・工夫：総合病院の小児科外来の受付から診察まで
3. 学会等名 第26回日本外来小児科学会年次集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 植木慎悟
2. 発表標題 Challenges for Pediatric Outpatient Nurses
3. 学会等名 20th EAFONS (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北尾美香
2. 発表標題 A Study on Pediatric Outpatient Nursing Techniques for Performing Medical Examinations Effectively and Smoothly.
3. 学会等名 20th EAFONS (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤田優一
2. 発表標題 The Current Status of Pediatric Outpatient Departments in General Hospitals in Japan
3. 学会等名 20th EAFONS (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	植木 慎悟 (UEKI SHINGO) (10779218)	武庫川女子大学・看護学部・講師 (34517)	
研究分担者	北尾 美香 (KITAO MIKA) (90779224)	武庫川女子大学・看護学部・助教 (34517)	
研究分担者	藤原 千恵子 (FUJIWARA CHIEKO) (10127293)	武庫川女子大学・看護学部・教授 (34517)	